

///Capitalism and Postmodernism (Pre-resume)

Hoshina Nakamura : Ayaka Okada : Masashi Sugai : Yuta Komaguchi

///001 Intro.

今回私達は第五章「近代化」と第六章「『ポスト』モダニズムかポスト『モダニズム』か？」について扱います。

資本主義的近代化という概念は今までの発表のなかでも共通して登場してくる概念であり、ハーヴェイも言っているように、モダニズムとポストモダニズムを適切に解釈するには避けては通れない概念でもあるように思います。今回の発表においては、テキストにおいてマルクスの文章を引用しながら考察された「資本主義」からモダニズム、ポストモダニズムの性質について考えていくのと同時に、モダニズムとポストモダニズムの関係性についても今まで発表の中で確認してきたことも踏まえながら議論していきたいと考えています。

プレレジюмеにおいてはテキストを読み解くにあたって特にポイントとなる語句、もしくは理解しにくい語句についてピックアップし、説明や発表班なりの再解釈を掲載します。各自がテキストを理解する際の参考にしてください。

///002 Critical Words.

「カール・マルクス」(Karl Heinrich Marx, 1818年5月5日 - 1883年3月14日)

⇒ユダヤ系ドイツ人の経済学者、思想家、革命家であり、20世紀において最も影響力があった思想家とされている。主な著書『資本論』『共産党宣言』『ドイツ・イデオロギー』など多岐にわたる。

「使用価値と交換価値」P140, L19

⇒使用価値：使用することで欲望を満たすこと。

交換価値：他の商品を得るために用いるもの。

〈アダム・スミス著『国富論』で水とダイヤモンドを用いた使用価値と交換価値の例〉

水は飲んでどのの渴きを潤すので使用価値がある。しかしダイヤモンドの場合、

貴重なため交換価値は大きい、人にとって直接的な使用価値はない。

「商品の物神崇拜」P141, L14

⇒物象化とも言われる。貨幣経済において、労働生産者が生産した生産物(商品)を交換(購入)する際、その生産者の生活状況や精神状態、また生産の喜びや苦悩という感情などの生産背景が隠されてしまう状態のこと。フェティシズム。

「他者」及び「他者性」 P142, L4 P146, L8

⇒資本主義における「他者」とは、商品を例に挙げれば商品の「生産者」であり、資本家に対しての「労働者」でもある。「他者」の思いや、その商品が生まれるまでの他者の労働の過程はその商品には現れず全て覆い隠されてしまい、消費者はそれを知ることができない。そこで他者との関心が途絶えてしまう。資本主義社会とは、その不透明なものにされている「他者」によって循環していく。

「擬制資本」 P150, L10

⇒物質的に存在していないもの（ここにおいては信用がそれにあたる）に投じられる貨幣のようなものであり、一定の貨幣所得に対する請求権の価格。一般的な例としては「株式会社」があげられるが、株式会社は株式の額面価格によって集められた「現実資本」と、その会社の企業価値を反映して市場が決める株式の市場価格からはじかれる「擬制資本」（いわゆる「時価総額」と表現されるようなもの）が、並立して存在する。

「価値の価値」 P151, L1

⇒価値を付与しているモノの価値。つまり貨幣(コイン・シンボル)の価値。たとえば、貨幣経済において、貨幣で物と交換(購入)することはできるが、物で貨幣と交換したり、異なる物同士で交換したりすることはできない。つまり、その物自体に使用価値・交換価値があるとしても、貨幣でしか物に価値を与えることができないということ。

「ボナパルティズム」 P152, L16

⇒本来の意味ではナポレオン 1 世によるフランス第一帝政の崩壊後、ナポレオン 1 世の一族を再びフランスの支配者に据えようとした政治運動を指すが、第六章においてはより広義の意味、つまり革命運動を強権でもって弾圧しようとする権威主義的・反動的な運動一般のことを指している。ちなみにこの広義の意味でボナパルティズムという単語を用いたのはマルクスが最初である。

「再神話化」と「脱神話化」 P154, L10 L13

⇒この文章における「再神話化」は、自然力や社会を構成する諸権力を失われているように見える状況から、現実ではなく人為的に作られた想像(=神話)の中で再度支配し、形成することを指す。この状態は資本主義が問題に直面するたびに起こるもので、この神話化のループの中から脱却することを目指すのが「脱神話化」である。その「脱神話化」が可能である土壌を筆者は「強力な社会主義」のもととしており、すなわち資本主義の不安定さや権力の塗り替えに左右されない構造下においてである。